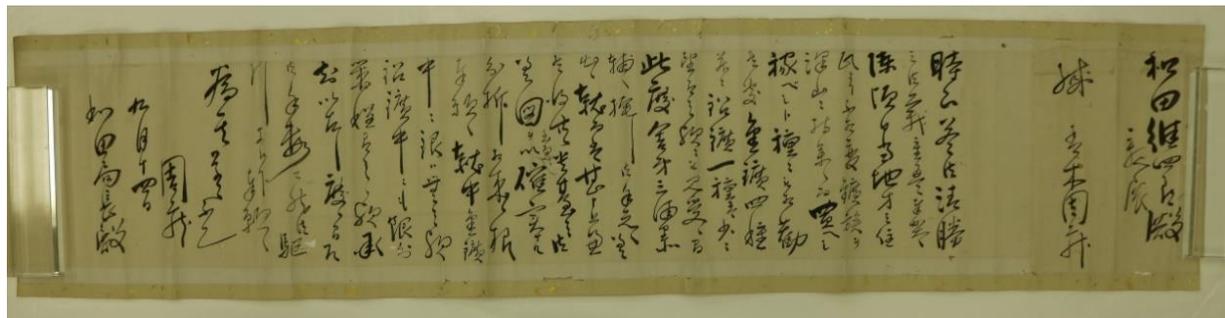


新発見資料「和田^{つなしろう}維四郎宛 青木^{しゅうぞう}周蔵書簡」について

○資料名 「和田維四郎宛 青木周蔵書簡」 1点（封筒付き）

○資料の概要・評価について

- ・この資料は、明治時代の外交官で、山県(第一次)・松方(第一次、第二次)内閣の外務大臣を務めた青木周蔵が、福井県出身の鉱物学者・和田維四郎に宛てた書簡です。こども歴史文化館で最近新たに入手しました。
- ・書かれた年代は不明ですが、宛名が「和田局長」となっていることから、和田が農商務省地質局長や鉱山局長を務めた1886年(明治19)～1893年(明治26)のものと考えられます。
- ・内容は、青木が入手した「鉱族」(鉱物)のうち、銀を含む可能性の高い「金鉱四種と鉛鉱一種」を実弟に持参させるので、それらを分析して知らせてほしいというものです。
- ・青木と和田はそれぞれドイツに留学し、また、ともに日本で設立された独逸学協会(ドイツの学問等を研究する会)の会員となっています。両者のつながりを示す貴重な資料です。
- ・また、青木が持ち込まれた石に銀が含まれるかの分析を和田に依頼をしたことから、青木の関心と和田の仕事について知ることができ、和田維四郎がその発展に尽力した近代鉱物学、その有効性が認識されていることが分かる資料といえます。



(封筒表書)

「和田維四郎殿

親展」

「緘 青木周蔵」

時下益々御清勝

之御義重豊奉賀候

陳頃日当地方之住

民より不相変鉱族ヲ

澤山ニ持参候而買ヘシ

稼ベシト種々被相勸

候處 金鉱四種

并ニ鉛鉱一種は少々

望有之歟ニ被見受候間

此度舎弟三浦泰

輔へ詫(託)し御手元へ差

出候 就而は甚申上兼

候得共 貴臺(台)之御

差図ヲ以至急ニ確實ナル

分析相来候様

奉願候 就中金鉱

中ニ銀ハ無之歟

鉛鉱中ニも銀分

幾程有之候歟 承

知いたし度候間 乍

御手数ニ可然御駆

引に被下奉願候

為其 早々不乙

周蔵

九月十四日

和田局長殿

(封筒表書)

「和田維四郎殿

親展」

(封筒裏)

「緘 青木周蔵」

時下益々御清勝のこととお喜び申し上げます。
申し上げることは、近頃この地方の住人より、
相変わらず鋳族(鋳物)をたくさん持参して、
(鋳山を)買うべきです、稼ぐべきですと、
様々勧められていたところ、
金鋳四種と鉛鋳一種は少し(銀が採れる)
望みがあるように見受けられましたので、
今度、弟の三浦泰輔に託して、
お手元へ差し出します。
ついでには、大変申し上げにくいことですが、
あなた様の指示を以って、
至急確実な分析をお願いいたします。
その中でも金鋳中に銀が無いのか、
鉛鋳の中にも銀はどれほどあるのか、
承知したいと思しますので、
お手数ですが、適切にお取り計らい下さるよう
お願いいたします。
早々不一。

周蔵

九月十四日

和田局長殿

※金鋳：金を含む鋳石。
ただし、量は採れない。

※三浦泰輔：青木の実弟。

周蔵は一八六五年(慶応元)
に青木家に養子に入った。

※この書簡は、一八八七年
(明治二十)ころ、青木が渋沢
栄一と共同開発を企図して
いた、石川県の倉谷鋳山の
不動島坑に関係したもの
である可能性が高い。(『渋
沢栄一伝記資料』より)